



宇宙の子

笑顔 輝き つながる 学校～チーム三隅～

浜田市立三隅小学校

浜田市三隅町古市場450

No.4 令和元年7月19日発行

文責 校長 樋野淳巳

1学期が終了しました

本日終業式をむかえ、68日（1年生は67日）間の1学期が終了しました。4月から子ども達は学習や行事など、学校生活の中で様々なことを体験しました。小さな積み重ねだと思えますが、この積み重ねが子ども達の成長につながっていると思います。夏休みは、学校生活とは違う別の体験をする良い機会です。8月27日までの39日間、安全にそして有意義に過ごしてほしいと思います。

「言葉を育てる」

7月の全校朝礼では、表記の題で話をしました。

みなさんは、自分の気持ちを人に伝えたり、相手の気持ちを理解するのにどうするかと言えば、話をして言葉で気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気づいたりすることが多いですね。小さい子は、自分の気持ちを上手に表現することができないから泣いたり、はぶててみたりして動作で気持ちを伝え言おうとするけれど、成長してくればきちんと言葉で伝えることができるようになりますね。

たとえば「おもしろかった」としか気持ちが言えないと、どうおもしろかったのかよくわかりませんね。けれども、「とても怖かったけど、スリルがあっておもしろかった。」「難しい問題だったけれど、一生懸命考えておもしろかった」「おなかが痛くなるほど大笑いをして、おもしろかった」といえば、「おもしろかった」の中身もよく伝わりますね。

また、あの子「地団駄を踏んでいる」と言われても、「地団駄を踏む」の意味がわからないとどんな気持ちや様子なのかわかりませんね。

つまり、人は話せる言葉が多くなると、それだけ分かりやすく相手に話を伝えたり、相手の思いを察したりすることができるようになります。

勉強も言葉を通じてしているから、言葉の意味をたくさん知るほど勉強の意味がわかるようになります。たとえば6年生に約分や帯分数と言う言葉をいえばどんなことかわかるけれど、1年生では無理ですね。

このように、自分が使える言葉が増えることってとても大切です。だから「言葉を育ててほしい」と思います。

言葉を育てて、しっかり話をするができるようになれば、自分の気持ちもきちんと伝えられるし、相手の気持ちもしっかりわかる人になれる。そのような人になってほしいと思います。そして深く考えることができるようになります。

それでは、言葉を育てるためには、どうしたら良いと思いますか。1つは話をしっかりすることです。赤ちゃんは大人の話聞いて言葉を覚えていきますね。みなさんも同じです。お家の人や年上の人と話をする中で言葉を覚えていきます。授業中、友達の意見を聞いて、「いいです。」とか「同じです。」だけでなく、もう一度自分の言葉で説明できるかが大事になります。友達と違う意見や考えで、そのことを話し合うようにすることも大事です。もう一つは本や新聞を読むことです。読んでいる中でだんだんと言語を覚えていきます。

人が成長するためには、自分のことばを育てていかないとはいけません。たくさんの言葉が使えるようこれからも意識してください。

今年の学校経営のテーマは「かかわる・つながる」です。人との関わりが増えれば、それだけ話せる言葉も増えてくるでしょうし、逆に話せる言葉が増えてくれば、人との関わりも深くなると思います。自分の話せる言葉を育てて、しっかり人と関われる人間に育ってほしいと思います。

スマイル集会

6月18日にスマイル集会を行いました。集会の中で各学級が、今年の学級目標を全校の前で発表しました。どの学級も、どのような目標にするか、学級のみんなで話し合っただけのものではなく、学級目標は、学級の誰もが意識して取り組んでいくことに値打ちがあります。発表でも堂々と発表していてやる気を感じました。みんなで考えた素敵な学級目標の実現を目指して取り組んでほしいと思います。



最近の活動



1年生は、水鉄砲遊びをしました。多少ぬれても楽しく活動しました。6月にはシャボン玉遊びもしています。



2年生は、子ども美術館で創作活動をしました。一人一人が作った作品を一つの作品にしました。



4年生は、石見神楽について学習しました。衣装やお面を付けさせてもらったり、鬼棒などの道具作りを教えるもらったりしました。



3年生は、東平原に出かけ、柿渋の効果を学んだり、柿渋作りを体験したりしました。食べるだけではない柿の活用を知ることができました。



5年生は福浦の港で釣り体験をしました。釣りの楽しさと三隅の海のすばらしさを感じることができました。



6年生は、水墨画を描く体験をしました。手本を描いていただきましたが、線の太さや墨の濃淡だけで描かれていることに驚きました。